

キリスト教保育を実践する

東 義也 (キリスト教保育連盟理事・尚綱学院大学)

学びを深めるために…

はじめに

- キリスト教保育とは?
キリスト教の教え、聖書の教えに基づく保育
- 聖書の子ども観

* 聖書 (The Bible) = 旧約聖書39巻 + 新約聖書27巻 = 計66巻

※この欄に記されていること

【註】: 引用箇所やスライドに関連する講師のコメント

☆ : 参考文献と参考箇所(キリスト教保育連盟発行書籍)

? : 話し合いの参考に

☆『キリスト教保育ハンドブック』
p.11「招かれている子ども」を参照

1. 子ども観

(1) 自ら育つ・自ら変わる存在

子ども = 「極めて良いもの」 (創世記1:31)
神さまによって生を与えられている
個性的でかけがえのない存在 = 価値ある存在

さらに、自ら育つ・自ら変わる存在
種: 中に生命・可能性を秘めている

【註】キリスト教保育における子ども観、保育観については是非『ともに育つ保育 入門』をお読みください。
久洋子「キリスト教保育の恵みと希望(1)」p.197~を参照

【註】植物の種でなくても、動物や人間(哺乳類)の受精卵も同じですね。

☆『新キリスト教保育指針』
p.16「キリスト教の人間理解と保育 2) イエスと子ども」を参照

(1) 自ら育つ・自ら変わる存在

逆の子ども観は?
・子ども = 無知・無能・無力
→ 一方的、押しつけ、～させる保育
・集団を束ねて、教化した方が合理的
→ それが教育?

子ども観によって、保育観も変わる

「育」: 育てる・育つ。どっちが先?

☆『キリスト教保育ハンドブック』
p.38「自主性と協調性」、p.46「つくり出す環境」を参照

(2) 子どもの権利条約

1989年 子どもの権利に関する条約が国連総会で採択
1994年 日本批准 (158番目)
遊ぶ権利 (第31条)

〔参考〕

2017年 核兵器禁止条約が国連の会議で採択
2021年1月 発効
日本は未だ批准せず

【註】第31条 1. 締約国は、休息及び余暇についての児童の権利並びに児童がその年齢に適した遊び及びレクリエーションの活動を行い並びに文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利を認める。2. 締約国は、児童が文化的及び芸術的な生活に十分に参加する権利を尊重しかつ促進するものとし、文化的及び芸術的な活動並びにレクリエーション及び余暇の活動のための適当かつ平等な機会の提供を奨励する。

【註】子どもの権利という視点から考えると、核兵器禁止条約も重要です。これは国連の会議で2017年に採択され2021年1月に発効されます。批准した国と地域が50に達したからです。しかし、世界で唯一の被爆国・日本はなんと未だに批准しません。広島・長崎の人たち、また、核兵器を貯蔵しかねない、もう格納しているかもしれない米軍基地を抱える沖縄の人たちのことを考えると、心が締め付けられます。世界の子どもたちの豊かな成長と平和を願うならば、当然核兵器などは廃絶・根絶されなければならないと思います。

(第1回の感想から…)

- ・コロナ禍での葛藤
- ・自然との関わり

☆『ともに育つ保育 入門』

p.78「自然との触れあい」、p.149「センス・オブ・ワンダー」を参照

2. 子どもの遊びと保育観

(1) 遊びの意味

子どもが自らする遊びには意味がある
(些細な遊び、名前のつかない遊び・行為も含む)

- ・ティッシュボックスでいたずら
平井信義「子どものいたずら (悪戯) は探索活動」
- ・紙ひこうきと自分
作るといふこと、見せるといふこと

【註】平井先生は、悪戯(いたずら)は大事、順調に発達している証拠だと言っていました。それは大人にとって困ることもかもしれないが、決して悪いことではない。困るからという理由で取り上げるのは良くない。それは子どもの自発性の発揮を妨げることになる、とも仰っていました。

☆『ともに育つ保育 入門』p.75「子どもらしい遊びの回復」、『新キリスト教保育指針』p.46～48「遊びー共に育つ経験」『キリスト教保育50の質問』p.30「Ⅱ保育の実践 1.遊びを大切にする保育とはどういうことですか」を、それぞれ参照

(2) 分からない意味と信頼

- ・意味が分からない＝意味がない？
意味が分からなくても、意味はある？
- ・自らしている行為である限りできるだけ尊重・保障・充実・達成・満足させたい
支えたい (時間的・物理的・精神的に)
- ・津守房江
「『育つ』は『傍立つ (そたつ)』から来ているのでは？」

【註】待つということを私は「忍待」と書いたりします。

【註】「支えるということは、相手の気持を受け入れ、共感しつつ、一方に希望を持っていることかと思う。希望を持つということは、結果に対する期待というより、未来に向かって心をひらくことであろう。そばにいる大人がそのような思いでいる時、子どもも心をひらくことができることと思う。」津守房江『育てるものの日常』婦人之友社、1988、p.99「傍立つ」についても同書p.30を参照

☆『キリスト教保育ハンドブック』

p.61「子どものころがわかる」を参照

？ あなたにとって意味のあるように見える遊び(わかりやすい遊び)、意味がよくわからない遊びを思い浮かべてみましょう。子どもにとっての意味はどんなものでしょう。

3. 保育者のかかわりと子どもの変化

(1) 久先生と子ども

- ・「僕は、誕生日に、一番大切な聖書がほしいんだよ」
→自分も聖書を読めるようになりたい?!
→先生と同じ価値を持ちたい!?
- ・「だったら、K子もイエスさまが好き!」
→先生が好きなものを自分も好きになりたい?!
→先生と同じ価値を私も自分の価値にしたい!?

【註】久洋子「キリスト教保育の恵みと希望(2)」
『ともに育つ保育 入門』、2018年、p.220

☆『キリスト教保育50の質問』

p.24 「I キリスト教保育 8.なぜ『聖書』を子どもに語るのですか」を参照

? 子どもたちとのお祈り、礼拝でうれしかったこと、また、難しいなど感じるのはどんなことでしょうか。

・「教育は人なり」

大事なものは?

- ・教える内容?方法?教材?仕組み?
- ・教育者・保育者自身!
- ・それは、保育者の資質・能力?指導力?
- ・人柄?人格?徳?

☆『ともに育つ保育 入門』

p.120「何に価値を置いて保育を」を参照

3. 保育者のかかわりと子どもの変化

(2) 松隈先生と子ども

- ・ベスタロッチ
「子どもは母に似たものを愛します。母に似たものは彼にとって良きものです」
- ・「神の世界に子どもたちを導くのは母であり、ここに最も純粋な神と人との関係が結ばれる・・・キリスト教保育に携わる保育者のありかたが示される」

【註】松隈玲子「未来を思いつつ、今を大切に(1)」
『ともに育つ保育 入門』、2018年、p.232

(2) 松隈先生と子ども

- ・「だからぼく今日からひとりで寝る。F先生とお約束したんだもん」
→共にいてくださるイエスさま：知識より信頼

(3) まとめ

- 子どもと保育者の間にあるものは?
- 子どもが保育者に求めているものは?
- 保育を成り立たせているものは?

☆『キリスト教保育ハンドブック』

p.58 「信頼を築く」を参照

(第1回の感想から…)

・自然や生き物(いのち)から学ぶとは

【註】あぶくま守行編『矢内原忠雄による「日々のかて」』
キリスト教図書出版社、2002年を参照

? いのちや死について、子どもたちと話すのはどんな時でしょう。

4. 聖書から教えられる保育・教育

・ルカによる福音書第8章43-48節

「ときに、十二年このかた出血が止まらず、医者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえない女がいた。この女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れると、直ちに出血が止まった。イエスは、『わたしに触れたのはだれか』と言われた。人々は皆、自分ではないと答えたので、ペテロが、『先生、群衆があなたを取り巻いて、押し合っているのです』と言った。しかし、イエスは、『だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ』と言われた。女は隠しきれないと知って、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第とを皆の前で話した。イエスは言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。』」

【註】参考までに同じような箇所が、
マタイによる福音書9:20-22
マルコによる福音書5:25-34 にあります。

【註】レビ記15章を参照

☆『キリスト教保育ハンドブック』
p.11「招かれている子ども」を参照

4. 聖書から教えられる保育・教育

- ・「わたしから力が出て行った」
εξεληλυθειαν (エクセレーリュトウィアン)
□εξερχομαι (エクセルコマイ)
→「私の中から外に力が引き抜かれた」
- ・「わたしから力が出て行った」
女がイエスさまから彼の力を「引き出した」から?!

☆『キリスト教保育50の質問』
p.22「I キリスト教保育 7.『聖書』とはどのような書物ですか」を参照

4. 聖書から教えられる保育・教育

- ・educare (ex-/duco、ラテン語)
= draw out, bring away, raise up (英語)
= 引き出す、抜き出す、引き抜く
→educate, education (教育)
*保育: the early childhood care and education
- ・保育者が引き出す ⇔ 子どもが引き出す
(イエス) (女の人)
お互い・教育=共育

☆『新キリスト教保育指針』p.20「保育者にとってのキリスト教保育」、
『キリスト教保育ハンドブック』p.62「保育者の影響」、
『キリスト教保育50の質問』
p.72「IV保育者 5.子どもから学ぶということはどういうことですか」を、それぞれ参照

? 「保育者が引き出す⇔子どもが引き出す」
具体的な保育の場面では、どのような事例があるでしょう。

「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。
神が、あなたがたのことを心にかけていてく
ださるからです。」

ペトロの手紙 — 5：7

☆『新キリスト教保育指針』
p.102「保育者として生きる 5 神に委ね、希望をもって生きる」を
参照

MEMO